

TS 効果に関する研究 Study on the TS effect in sport tourism

1K09B130

指導教員 主査 木村 和彦先生

玉江 裕貴

副査 原田 宗彦先生

【目的】

本研究では、スポーツツーリズムにおけるTS効果に焦点を当て、従来のスポーツがツーリズムに与える影響ばかりでなく、ツーリズムがスポーツに与える効果、また、その要因について明らかにすることを目的とする。

【方法】

沖縄県石垣市を調査フィールドとして設定した。調査フィールドに設定した石垣島は近年、非常に人気を集めている観光地である。また、石垣島は石垣島トライアスロンなどのスポーツイベントや島の特徴を活かしたマリンスポーツなども人気を集める理由となっている。以上のようなスポーツツーリズムに力を入れており、スポーツへの参加意欲が高まる可能性が高いことから、石垣島を調査地として設定した。

調査フィールドである石垣島に観光目的で来訪してきた人々を調査対象とし、定量調査を行った。

調査日時は9月23、25日である。調査場所は石垣空港と離島ターミナルとした。

回収結果は有効回収数 158（有効回収率 98.7%）であった。

本研究は、ツーリズムがスポーツに与える影響について明らかにするものであるため、ツーリズムとスポーツの関係性にどのような特徴があるかを明らかにする必要がある。分析方法としてカイ二乗検定を使用し、性別や年齢、運動頻度などが観光客のスポーツ行動とどのように関係しているかの特徴を求めることとした。

動機やきっかけに関する自由記述による回答はKJ法を用いて分類し、分析を行った。

【結果】

スポーツ実施習慣のない人の石垣島でのスポーツ行動を行ったかを調べた結果、今回の調査では、スポーツ実施習慣のない人々も7割以上の確率でスポーツ行動を行っているということが示された。これは普段運動をしている人とほとんど同じ割合である。

スポーツ行動をした人と年代の関係について年代別に見てみると、20代30代で80%以上となっている。年代が上がっていくに連れ、スポーツを行った人の

割合が下がっていき、40代から50代になるところで、スポーツをしている人としていない人の割合が入れ替わるという結果が出た。

「運動・スポーツ未実施者」が日常的には運動していないにも関わらず、70%以上の方が旅行中にスポーツ行動をしている。また「非習慣的運動・スポーツ実施者」に関しては約90%の方がスポーツ行動をしたという結果が出ている。逆に、「習慣的運動・スポーツ実施者」のスポーツ行動した人は57%と、この3つの分類の中で最も低い数値が出た。

動機に関する回答を分類した結果、pull要因は合わせて51.6%でpush要因は38.2%であった。残りは「無記入またはなし」である。この結果から石垣島への旅行行動の動機はpull要因に起因しているものが多いと言える。

【考察】

40代までは石垣島への旅行でスポーツ行動をしていた割合の方が多かったのが、50代以降はスポーツ行動をしない人の割合が高くなっていることから、50代以降の人々は旅行でスポーツ行動以外のことへの意欲が高く、TS効果が現れにくいということが言える。

「運動・スポーツはほとんどしない」と答えた人でも、石垣島へ旅行しに来た人の75%もの方が今回の旅行でスポーツを行った（行う予定である）と回答した。この結果より、TS効果が表れていることがわかる。

スポーツ行動をした人の割合が「日常的運動・スポーツ実施者」よりも「運動・スポーツ未実施者」の方が多かった点から、日常的に運動・スポーツを実施している人々はスポーツ行動への欲求は少なく、逆に日常的に運動・スポーツを行っていない人の方がスポーツ行動に対する欲求が高い。

動機に関しては、50%以上がpull要因に起因しているという結果が示されている。そのため、石垣島が観光客を惹きつけ続けるためには今現在の自然を守っていけばいいということが言えるであろう。